

第13回JICA理事長賞の受賞者・団体が決定

01

今年で13回目を迎える「JICA理事長賞」と「JICA国際協力感謝賞」の受賞者・団体が決定しました。

ちの成長を支えるため、これからも活動していきたいと思えます」と意気込みを語りました。

〈第13回JICA理事長賞〉

事業部門…9件

JICA理事長賞は、開発途上国の経済・社会の発展や住民の福祉の向上などに大きく寄与した事業と、専門家・コンサルタント、ボランティアなどの個人それぞれに贈られます。今年度は、9事業と3人への授与が決まりました。

コイデレラ地域保健システム強化プロジェクト（フィリピン）／台風ヨランダ災害緊急復旧・復興支援プロジェクト（フィリピン）／沿岸警備隊に対する継続的かつ包括的協力（フィリピン）／ハトロン州ピアレンジ県給水改善計画（タジキスタン）／統合自然災害リスク管理国家戦略強化プロジェクト（ブラジル）／廃棄物削減推進（沖縄の経験を基に）研修フェーズⅡ（ジャマイカ）／離乳期栄養強化食品事業準備調査（ガーナ）／ヨルダン政府のスクーク発行可能性調査（ヨルダン）／ジェリコ農産加工団地（JAIP）開発に対する協力（パレスチナ自治区）

10月3日にJICA市ヶ谷ビルの国際会議場で表彰式が行われ、北岡伸一JICA理事長から、受賞者に表彰状と感謝状が手渡されました。

（専門家・財務管理）

式では、受賞者を代表して、台風ヨランダの復旧・復興支援に携わった宮城県東松島市の古山守夫副市長が、「貴重な機会をつくってくれたJICAに感謝します」と挨拶しました。一方、ガーナの栄養改善事業に携わった公益財団法人味の素ファンデーションの岩本保理理事長は、「貧困地域の子どもの

（専門家・交通計画）／染矢将和さん（専門家・財務管理）



台風ヨランダの普及・復興支援プロジェクトで再興を支援したミルクフィッシュの養殖場



ガーナの伝統的な離乳食の調理風景。受賞事業では、この離乳食に加える栄養食品「KOKO Plus」の販売・普及に取り組んでいる

九州工業大学と包括連携協力協定を締結

02

10月19日、JICAは九州工業大学との間で、工業系単科大学とは初めてとなる包括連携協力協定を締結しました。九州工業大学の尾家祐二学長と北岡伸一JICA理事長が出席し、JICA本部で署名式が行われました。

九州工業大学は、前身となる私立明治専門学校の開校から100年以上にわたり、日本の産業発展を支える技術者を輩出しています。近年は、JICAの研修員受入事業や草の根技術協力事業にも参加。地球規模課題対応国際科学技術協力（SATREPS）では、マレーシアの大学・研究機関と共に、同国サバ州の基幹産業であるパーム油産産業を、持続可能なグリーン産産業に変えることを目指した研究に取り組んでいます。

途上国の開発課題が高度化・複雑化する中、学術的な知見を有する大学との連携は不可欠です。本協定の締結により、九州工業大学が培ってきた知見とネットワークの活用が一層進展するとともに、国際協力の現場を大学の教育研究に活用することで、将来の国際協力の担い手育成にもつながることが期待されます。



署名式の様子

母子手帳の全国展開で妊娠・出産・育児までの継続的なケアを支援

03

10月27日、JICAはガーナ政府との間で、「母子手帳」の全国展開などを目的とする母子継続ケア改善プロジェクト「母子手帳」に関する討議議事録に署名しました。

近年、ガーナでは母子保健の改善に向けた取り組みを進めているものの、施設内の乳幼児と妊産婦の死亡率については数値が悪化。また、住民の健康状態や保健サービスの提供・アクセスにおける地域格差もあり、母子保健のさらなる推進が求められています。同国では、妊産婦用の「母子手帳」と乳幼児用の「子ども手帳」が使われていますが、新生児期の状態やケアはどちらの手帳にも記載されていないなど、母親の理解と行動を十分に促す内容とはいえませんでした。

本事業では、新しい母子手帳の導入・展開によって、母子の健康を継続的に管理する仕組みづくりや、制度化による持続性の確保に取り組み、母子の健康改善を目指します。さらに、一人一人の状況に応じた継続的な保健・栄養指導の強化や、啓発教材の作成も行い、全ての母子に対する質の高い継続ケアを推進します。



署名式に出席した星弘文ガーナ事務所長（左から2人目）とアジマン・メヌ保健大臣（中央）